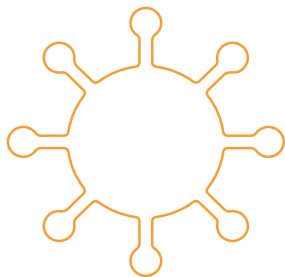


新型コロナウイルスワクチン接種を 受けることを考えている方へ



この冊子では、新型コロナウイルス感染症の現状と新型コロナワクチンについて、お役に立てる情報をまとめました。

新型コロナウイルスは日々変化しています。

スパイクタンパク質の遺伝的及び抗原的進化によって、新型コロナウイルスは、流行と進化を続けています¹。

今もなお、新型コロナウイルス感染症はリスクの高い健康課題です²。



新型コロナウイルス感染症は、2020年3月にパンデミック状態となり、以後、世界中で流行の波を繰り返しています。2023年5月4日に世界保健機関（WHO）は、国際的に懸念される緊急事態（PHEIC）の終了を宣言しましたが、引き続きリスクの高い健康課題であり、長期的な対応が必要であるとしています。

新型コロナワクチンの接種について³

令和6年（2024年）度から新型コロナワクチンの接種は、重症者を減らすことを目的とし、定期接種として実施することとなっています。

定期接種

〈対象者〉

- 65歳以上の方
- 60歳から64歳までの一定の基礎疾患（※1）を有する方

※1 心臓や腎臓、呼吸器の機能の障害があり身の回りの生活を極度に制限される方や、ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能に障害があり日常生活がほとんど不可能な方。インフルエンザワクチンの定期接種の対象者と同じです。

〈費用〉

原則一部自己負担（※2）

※2 各自治体において設定した自己負担額がかかります（低所得者を除く）。

〈スケジュール〉

感染症の状況やワクチンの有効性に関するデータを踏まえ、毎年秋冬に1回行うこととされています（※3）。

※3 定期接種以外の時期に接種を希望される場合は、任意接種となります。

任意接種

〈対象者〉

定期接種の対象者以外で接種を希望される方

〈費用〉

全額自己負担（※4）

※4 自治体による助成金がある場合があります。

〈スケジュール〉

通年

高齢の方、基礎疾患のある方、免疫機能が低下している方は、新型コロナワクチンの接種をご検討ください³。

1) WHO. Statement on the antigen composition of COVID-19 vaccines. 2024.

<https://www.who.int/news/item/26-04-2024-statement-on-the-antigen-composition-of-covid-19-vaccines> (2024年7月24日確認)

2) 診療の手引き編集委員会. 新型コロナウイルス感染症COVID-19診療の手引き 第10.1版. p.5, 2024より一部改変

<https://www.mhlw.go.jp/content/001248424.pdf> (2024年7月24日確認)

3) 厚生労働省. 新型コロナワクチンについて. 新型コロナワクチンQ&Aより一部改変

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine_qa.html (2024年7月24日確認)



新型コロナウイルスワクチンの接種を受けることができない方³

一般に、以下の方は、ワクチンを接種することができません。ご自身が当てはまるか不安な方は、ワクチンを接種してもよいか、身近な医療機関にご相談ください。

- 明らかに発熱している方（※1）
- 重い急性疾患にかかっている方
- ワクチンの成分に対し、アナフィラキシーなど重度の過敏症（※2）の既往歴のある方
- 上記以外で、予防接種を受けることが不適切な状態にある方

※1 明らかな発熱とは通常37.5℃以上を指します。ただし、37.5℃を下回る場合も平時の体温を鑑みて発熱と判断される場合はこの限りではありません。

※2 アナフィラキシーや、全身性の皮膚・粘膜症状、喘鳴、呼吸困難、頻脈、血圧低下など、アナフィラキシーを疑わせる複数の症状

新型コロナウイルスワクチンの接種に 注意が必要な方³

一般に、以下の方は、ワクチンを接種するにあたって注意が必要です。
当てはまる方は、予診票に記載をしていただいた上で、予診を行います。

- 過去に免疫不全の診断を受けた人、近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
- 心臓、腎臓、肝臓、血液疾患や発育障害などの基礎疾患のある方
- 過去に予防接種を受けて、接種後2日以内に発熱や全身性の発疹などのアレルギーが疑われる症状がでた方
- 過去にけいれんを起こしたことがある方
- ワクチンの成分に対して、アレルギーが起こるおそれがある方

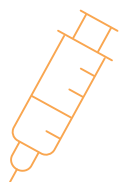
ワクチン接種は体調のよいときに受けるのが基本ですので、特に基礎疾患のある方は、病状が悪化していたり、全身が衰弱している場合は避けた方がよいと考えられます。ご心配な方は、かかりつけ医にご相談ください。

また、新型コロナウイルスワクチンは筋肉内に注射することから、

- 抗凝固療法を受けている人、血小板減少症または凝固障害のある方は、接種後の出血に注意が必要とされています。

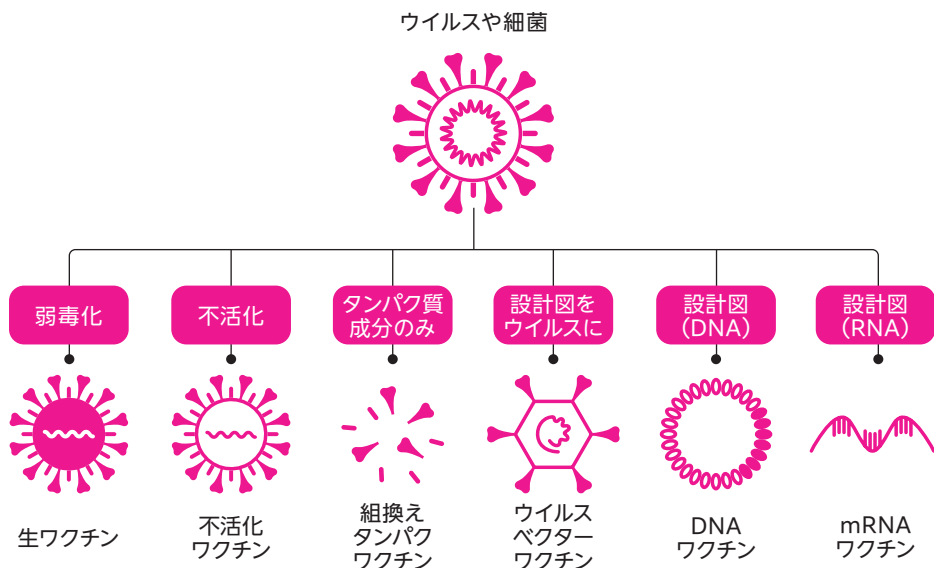
3) 厚生労働省、新型コロナウイルスワクチンについて、新型コロナウイルスワクチンQ&Aより一部改変
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine_qa.html(2024年7月24日確認)

mRNAワクチンについて



体内で新型コロナウイルスに特徴的なパーツを作る設計図として働くことで、免疫を誘導し、ワクチンとしての効果を発揮します。ウイルスそのものではなく、免疫を反応させるためのパーツを作るだけなので、ワクチン接種による感染の心配はありません。

代表的なワクチンの種類³



新型コロナウイルスワクチン接種後の注意事項

- 接種後、15～30分程度は接種医療機関の施設内などで、背もたれのある椅子に座るなど、ゆったりとした気持ちでお待ちください。何か異常を感じた場合には、ただちに、接種医療機関の医師、看護師などにお伝えください。
- 副反応は接種後30分以上経過した後にも起こることがあります。お待ちいただいた後でも、いつもと違う体調の変化や異常を感じた場合は、速やかに接種医療機関の医師や看護師、あるいはかかりつけ医に連絡してください。

新型コロナウイルスワクチン接種後にみられた副反応

- 主な副反応として、接種後に注射した部分の痛み、疲労、頭痛、筋肉や関節の痛み、寒気、下痢、発熱などがみられることがあります。こうした症状は、接種後数日以内に回復することが多いとされています³。
- ワクチン接種により、アナフィラキシー（急性のアレルギー反応）が発生したことが報告されています。もし、アナフィラキシーが起きた時には、医療機関ですぐに治療を行うこととなります³。
- mRNAワクチンでは、心筋炎や心膜炎を疑う事例が報告されています。胸の痛みや息切れなどの症状がみられた場合は速やかに医療機関を受診してください³。
- mRNAワクチンでは、ギラン・バレー症候群を疑う事例が報告されています。両手や両足に力が入らないなどの症状がみられた場合は速やかに医療機関を受診してください⁴。

新型コロナウイルスワクチン接種後の生活上の注意事項³

- ワクチン接種後、上記のような症状が出た時のために、できるだけ接種当日や翌日に無理をしないですむような予定を立てることをおすすめします。
- ワクチン接種当日は、激しい運動や過度の飲酒などは控えてください。
- 接種部位については、清潔に保つよう心がけてください。

3) 厚生労働省、新型コロナウイルスについて、新型コロナウイルスQ&Aより一部改変
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine_qa.html(2024年7月24日確認)
4) 各種コロナウイルス(SARS-CoV-2)RNAワクチン電子添文(2024年7月24日確認)



最新の情報は
「モデルナ・ジャパン株式会社新型コロナワクチン情報サイト」で
ご確認ください。